



整備が進むJR下関駅ビル(11月中旬撮影)

市ホームページ「市長の部屋」へどうぞ。http://www.city.shimonoseki.lg.jp/

整備が進んでいます 下関駅にぎわいプロジェクト



んにちは。市長の中尾友昭です。「下関駅にぎわいプロジェクト」で整備中

のJR下関駅ビルの外観がいよいよ姿を現しました。本市では、中心市街地活性化基本計画に沿って、さまざまな事業を展開しています。本計画の西側の核となる同プロジェクトは、ハード事業とソフト事業を一体的に組み合わせ、平成21年から下関駅周辺のにぎわいと周りの商店街などへの人の流れをつくることを目指して進めています。

今年の春から、高架下にスーパーマーケットがオープンし、改札口の移動やうどん屋の復活など下関駅が変わっていく姿が見えてきました。JR下関駅ビルの1・2階の商業施設の名称も「Ripie」と決まりました。ビル外壁には、3階に整備され市が運営する下関市次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」と一緒に名前が掲げられました。

ふくふくこども館は、「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとして、施設内には、こども一時預かり室や相談室、各種イベントなどができる多目的室や工作などができる「交流スペース&クリエイティブランド」、海

の中をイメージした乳幼児のための遊び場「プレイランド」などを備えています。現在は、来年4月1日のオープンに向け内装などの工事を進めています。

完成に向けて急ピッチで進む下関駅にぎわいプロジェクトの工事。人工地盤からは、新たに整備される駅西口に向かう通路の入り口も見え、人工地盤と通路やリピエへの入り口との接続のための工事を進めています。東口広場では、シールド前の歩道、バスターミナルや国道の自転車道の整備が進んでいます。西口の広場では、自転車置き場を高架下に移すなど整備工事が始まっています。これからは、完成に向けて工事が込み合ってくるため、皆さんに不便をお掛けしますが、新しい下関市の玄関口を作っていくため、ご協力をお願いします。

下関駅周辺の既存の民間事業者や、新たに進出する事業者と市が一緒に進出する

て、新たなにぎわいが、施設ができたときだけの一過性のものとならないように、にぎわい創出のための組織作りを行っています。下関駅にぎわいプロジェクトにご期待ください。

下関市は、市長の中尾友昭です。「下関駅にぎわいプロジェクト」で整備中

のJR下関駅ビルの外観がいよいよ姿を現しました。本市では、中心市街地活性化基本計画に沿って、さまざまな事業を展開しています。本計画の西側の核となる同プロジェクトは、ハード事業とソフト事業を一体的に組み合わせ、平成21年から下関駅周辺のにぎわいと周りの商店街などへの人の流れをつくることを目指して進めています。

今年の春から、高架下にスーパーマーケットがオープンし、改札口の移動やうどん屋の復活など下関駅が変わっていく姿が見えてきました。JR下関駅ビルの1・2階の商業施設の名称も「Ripie」と決まりました。ビル外壁には、3階に整備され市が運営する下関市次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」と一緒に名前が掲げられました。

ふくふくこども館は、「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとして、施設内には、こども一時預かり室や相談室、各種イベントなどができる多目的室や工作などができる「交流スペース&クリエイティブランド」、海

の中をイメージした乳幼児のための遊び場「プレイランド」などを備えています。現在は、来年4月1日のオープンに向け内装などの工事を進めています。

完成に向けて急ピッチで進む下関駅にぎわいプロジェクトの工事。人工地盤からは、新たに整備される駅西口に向かう通路の入り口も見え、人工地盤と通路やリピエへの入り口との接続のための工事を進めています。東口広場では、シールド前の歩道、バスターミナルや国道の自転車道の整備が進んでいます。西口の広場では、自転車置き場を高架下に移すなど整備工事が始まっています。これからは、完成に向けて工事が込み合ってくるため、皆さんに不便をお掛けしますが、新しい下関市の玄関口を作っていくため、ご協力をお願いします。

下関駅周辺の既存の民間事業者や、新たに進出する事業者と市が一緒に進出する

て、新たなにぎわいが、施設ができたときだけの一過性のものとならないように、にぎわい創出のための組織作りを行っています。下関駅にぎわいプロジェクトにご期待ください。



下関市は、市長の中尾友昭です。「下関駅にぎわいプロジェクト」で整備中

のJR下関駅ビルの外観がいよいよ姿を現しました。本市では、中心市街地活性化基本計画に沿って、さまざまな事業を展開しています。本計画の西側の核となる同プロジェクトは、ハード事業とソフト事業を一体的に組み合わせ、平成21年から下関駅周辺のにぎわいと周りの商店街などへの人の流れをつくることを目指して進めています。

今年の春から、高架下にスーパーマーケットがオープンし、改札口の移動やうどん屋の復活など下関駅が変わっていく姿が見えてきました。JR下関駅ビルの1・2階の商業施設の名称も「Ripie」と決まりました。ビル外壁には、3階に整備され市が運営する下関市次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」と一緒に名前が掲げられました。

ふくふくこども館は、「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとして、施設内には、こども一時預かり室や相談室、各種イベントなどができる多目的室や工作などができる「交流スペース&クリエイティブランド」、海

の中をイメージした乳幼児のための遊び場「プレイランド」などを備えています。現在は、来年4月1日のオープンに向け内装などの工事を進めています。



下関市内の晋作ゆかりの地の紹介は、今回で最終回です。今回は晋作が息を引き取った終焉の地(新地町)を紹介します。1866年、胸を患っていた高杉晋作は、小倉戦争の指揮を執っていたさなか病状が悪化し、小倉城炎上を見届けた後に軍務を免じられました。その後、新地桜山招魂場の下に居をかまえ療養します。晋作はこの住家を「東行庵」と称しています。1867年2月頃には近くの酒造家林算九郎宅の離れ座敷に移って療養を続けました。1867年4月13日(命日は14日)、晋作は肺結核のため、林算九郎邸で満27歳の短い生涯を閉じました。それは、徳川慶喜による大政奉還より6カ月前、王政復古の大号令より8カ月前のことでした。



現在、新地妙蓮寺前には碑が建てられ、かつての同志であった野村素介の筆による「高杉東行終焉之地」と刻まれています。

●下関市年表販売中！
販売価格 3,000円
詳細 広報広聴課
(☎231-2951)

しものせきナビ vol.40

「歴史を歩く」

高杉晋作 終焉の地 (1867年)